

ひとつ屋根の下

SAMUKAWAHOME 20周年特別版 SAMUKAWAHOME

【特集】寒川ホームの歩み



2013年 第17号

20周年に寄せて

部門報告

平成24年度事業報告 ほか



ご利用者 丸田さん



ご利用者 山口さん

社会福祉法人 きち じょう かい 吉祥会 寒川ホーム

こうざくんさむかわまちこやと
〒253-0103 神奈川県高座郡寒川町小谷1丁目13番5号

TEL 0467 (75) 0785 FAX 0467 (75) 9963

〈メールアドレス〉mail@samukawahome.com

〈ホームページ〉<http://www.samukawahome.com>

介護老人福祉施設 / デイサービス / ショートステイサービス /
ホームヘルパーサービス / 居宅介護支援事業

創立二十周年を迎えて

その人らしい暮らしその暮らしを共有したい

寒川ホーム理事長 鈴木清

寒川ホームの設立理念

社会福祉法人吉祥会 寒川ホームは、開設から20周年を迎えました。つねに「地域に開かれ」「地域に愛され」「地域に信頼される」を設立理念に、この歴史に刻み、これまで地域と共に歩んできました。

お年寄りが共に集い、語らい、地域の交流を広げる福祉施設の誕生が大きな目標でした。お年寄り子ども達が共に暮らすという日本の良き家族像の実現が理想であります。寒川ホームでは地域に開かれ、地域と共に歩む福祉施設の実現を具現化することが、いま、求められていると思います。また、施設で暮らすお年寄りの快適さを最優先に施設づくりや、おもてなしの最先端を実践していくことも大切なテーマです。

この20年、社会福祉を取り巻く環境は大きく変わりました。介護保険が導入され、措置から契約へと変更されました。さらに相次ぐ民間企業等の参入により施設運営は日増しに激化しています。社会福祉法人は文字どおり選別される立場になりました。

このような経営環境の激変に対して施設側がどう対処できるかどうかで大きな格差がついていくものと思います。

このような経営環境の激変に対応することこそ、施設の将来に大きな格差がつきます。

その結果、利用者に選ばれるような質の向上が共通のテーマとして認識して日常業務に取り組んできました。我々は問題意識をもって改善・改革に取り組んで一定の成果として

芽生えていると思われれます。これまでの運営から、経営への発想の転換を求められているからです。

また、さらに加速する高齢社会にあつて、介護予防は勿論のこと、一人ひとりのお年寄りの「幸せな毎日」を実現する介護の多様化、個別化が求められる時代にもなっているのです。職員は常に感謝する心・謙虚な心・共感する心を忘れない人になるため、常に利用者の立場で日々努力しています。

介護は利用者の立場で…

社会福祉法人は社会保障・社会福祉制度を守りサービス提供の施設運営をする事業体です。高齢者福祉・介護を取り巻く環境・状況は、日々姿を変えています。国民の期待を受

けて介護保険制度は、20年が経過し介護サービスの提供に一定の成果を上げてきました。しかし、団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えての高齢者の介護・医療のあり方が問われています。行政・地域の協力および体制整備に最も重要なのは、その世代が75歳を迎える2020年代後半であり、高齢者福祉・介護の担い手である若年層の人々が念頭に置かなければならない時期に直面していると思います。

職員のモチベーションと教育

戦後の日本経済の成長と国民の生活状態の向上に伴って、公的保障と社会福祉のニーズが減少したかという点必ずしもそうではありません。これまでの社会福祉施設がその時代における業務に汲々としていたのか、もしくはそうした発想がなかったのかと思います。しかし、時代は急激に変わり社会福祉は単に存在することで意味を持つものではなく、

積極的に自己アピールをして社会的認知を受け社会福祉施設の価値を高める事が必要だと思えます。

そのためには、職員の動機づけ（モチベーション）と教育の意義を徹底する必要があります。職員はレベルを高めたいという要望があり、「あの分野の知識を得たい」とか「○○能力を開発したい」という教育ニーズを持っていきます。こうしたニーズを的確に把握した教育プログラムを立案する必要があります。また、研修参加を動機づけするには、研修方法にも工夫をしなければなりません。これらは、きわめて重要なことであり、それを活かすよう法人はサポートすることが必要だと考えます。

情報社会の中で

人は生まれてから死ぬまでにいたい何人の人と知り合い、知人になるでしょうか。勿論、その数は人によって全く千

差万別で数えようがありません。

今日の情報化社会において、情報を収集する手段は読む・聞く・見るの三要素しか使われていません。今、自分自身において情報が絶対量において不足している傾向があるように思われます。やはり、情報社会を生きる者は、情報交換のバランスシートを考えて行動することが必要不可欠なのではないかと思えます。

これまでも、これからも高齢者介護のあらゆる相談・ご要望を謙虚に聞き、地域に根ざした安全・安心の施設を目指す努力と覚悟を持ち、職員全体で取り組みますのでご助言・ご指導をお願いいたします。



鈴木理事長

20th Anniversary



三澤 純子 施設長

写真で振り返る

「寒川ホームの歩み」

平成5年オープンで、最初の7年間は、特養は措置、在宅サービスは町からの委託事業でした。平成12年からは、介護保険制度化で再スタートしました。措置から契約へと、利用者サービスも集団対象から個別対象へと、大きな変化をしております。外出でも、以前は特養全員でバスを借りて遠足でした。



平成7年

夏祭 ホーム前駐車場にての小さい輪の盆踊り⇒雪本駐車場にて小谷自治会と合同で⇒小谷小学校での小谷夏祭に参加(自治会員や民生・児童委員多数の協力で全員同時にマンツーマン移動)



平成8年

遠足 大型バスを借りての全員で県立公園へ(ボランティアさんやご家族も)



平成9年

クッキングクラブも入居者が食生活改善グループの援助で行っていました。



平成5年

クリスマス会、職員によるキャンドルサービス。その後ユニット化の改装時に舞台はカンパレンスルームに



平成6年

ひな祭り 全員で食堂に集合

今は、個別またはグループ内数人で行きたい希望の場所へと変わっています。日々の介護の中でも、大きな浴槽に入っていた入浴も、個浴へと。平成15年には、介護の世界が大きく変化する中、介護サービスの品質向上を目指して、この業界ではいち早くISO9001を取得しました。平成16年には、従来型回廊式を4つのグループ(あゆみ・四つ葉・はなまる)と別れて、グループ毎に生活をする特養となりました。「寒川ホームは、ついに住み家づくりにしたい」と言われるホームであり続けます!



平成11年

大きかった食堂で行った全員参加の運動会



平成10年

芋ほり まける入居者は畑に入り、前以マッソル持ったサツマイモを掘りました。



平成18年

はなまるグループでのリビンガでの仲良し運動会へ



平成22年

ホームの車で「かなガーデン」へ和グループで



平成25年

ホーム内の季節行事はなまるグループも豆まきを楽しみました。



平成24年

小動神社へ初詣も和グループで

2013年 寒川ホームグループ



あゆみ



四つ葉



和



はなまる

20th Anniversary

寒川ホームが日頃よりお世話になっている方々から
温かいメッセージが届きました。



寒川ホーム創立20周年によせて

寒川町 町長 木村 俊雄



社会福祉法人吉祥会寒川ホームの創立20周年を心から祝い申し上げます。

寒川ホームが創立されました平成5年当時の寒川町における高齢化率は、まだ7.6パーセント程度に過ぎませんでした。その中で寒川ホームにおかれましては、特別養護老人ホームとしての役割はもちろんのこと、寝たきりのお年寄りやその家族のニーズに対応した各種の保健福祉サービス実施機関等との連絡調整や在宅介護に関する総合相談など、在宅介護支援センターとしての機能を先駆的に果たされ、創立当初から地域において介護を必要とする方々の福祉向上に大きく貢献してこられました。

その後、平成12年の介護保険制度のスタート以来、居宅介護支援や介護老人福祉施設、訪問介護、通所介護、短期入所生活介護といった各種の介護サービス

を提供し続け、今や地域になくはない重要な社会資源となつています。「地域に開かれ」「地域に愛され」「地域に信頼される」施設を目指すという寒川ホームの理念を、まさに体現していると言えるでしょう。

創立20周年を迎えられた今、町の高齢化率は22.3パーセントに達しています。認知症高齢者や一人暮らしの高齢者の増加が見込まれる中、発足から12年が経過した介護保険制度においては、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていける仕組みづくりが求められており、町としても様々な取り組みを模索しているところです。

そうした中、平成24年4月には寒川ホームと町との間で「災害時における要援護高齢者の緊急受入に関する協定」を締結することができました。厳しい社会情勢の中で、高齢者の安心・安全のためにご協力くださるその姿勢

に、この場を借りて感謝申し上げます。

今後、町の高齢者人口はさらに増加することが予測され、5年後には高齢化率も26パーセントを超える見込です。町では、介護保険制度の健全運営はもちろんのこと、介護状態にできるだけならないための様々な施策を展開していく必要があると考えています。そのためには、寒川ホームのような地域に根ざした事業所をはじめとする「地域の力」と行政との協働が必要です。

これからも、寒川ホームの理念に基づき施設として、寒川町の高齢者福祉の発展にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、寒川ホームの今後益々のご発展と職員の皆様のご健康及びご多幸を祈念申し上げます。創立20周年によせてのご挨拶いたします。



地域に必要とされる施設として

寒川ホーム理事 小菅 義雄

寒川ホームが20周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

平成5年に認可されて以来、自然豊かな小谷の地に寒川で最初の特別養護老人ホームを設立し、歴史を刻んできました。介護老人福祉施設の重要性を認識され、その使命を果たされてきました。

寒川ホームが地域密着型施設として地元の人から慕われております。

施設が立地する小谷自治会では寒川ホームの運営に全面協力をし、夏祭りの会場が施設の近くに設営され、屋台も多く出店して賑わいのある大きなイベントとなっております。

そこでは、ボランティアの協力により施設の入居者が多く参加し、お小遣いをもって出店で買い物したり、演芸を楽しんでいました。また、小谷友愛チームの方や多くの人が、寒川ホームで利用者の整髪や洗濯物の折りたたみ及び花壇の管理等の奉仕活動をされ地域との交流が盛んな施設となっております。

特別養護老人ホームの入所が厳しい中、在宅福祉サービスの拠点施設としての活動が期待されています。寒川ホームは、職員の積極的な提案等により、利用者の立場に寄り添った施設設備の改善に努め、使いやすい施設になっていきます。またISOの認証取得により業務の標準化と改善が図られました。

入居者のサービスが向上するとともに私たちが肌で感じたことは電話での応対がよくなったこと、お客様の駐車スペースが設けられたことです。

寒川町では「優しさと輝きと誇りのあるまち湘南さむかわ」を町の将来像とし、「福祉のまちづくり」を目指しております。

寒川ホームにおきましても住民が安心して暮らせるよう努めていただきます。

この20周年を契機に寒川ホームの益々の発展とご活躍を期待するとともに皆様のご健勝をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



地域と共に

小谷自治会長 右城 栄一

地域における安心のシンボルとも言える「吉祥会 寒川ホーム」が誕生して20年、小谷自治会の所属団体になって10年、様々な自治会活動には欠く事の出来ない関係が確立されています。

当自治会の会員世帯数は千軒超ですが、毎年行っている「敬老の日」の記念品贈呈対象者75才以上も300人になろうとしています。毎年15%もの増加が地域住民の高齢化進行を如実に物語っており、益々当該施設の存在が評価されているのであります。

毎年行われる自治会夏祭りには大勢の入所者が、車椅子介助の地域ボラの皆さんと会場楽しんで頂いたり、施設駐車場をお借りして行うチビッコマ回し大会では車椅子のお年寄りが楽しんでにコマ回しに挑戦する微笑ましい光景にも接することが出来ました。地域の小学校の運動会には多くの地域の方々の介助で車椅子を駆って、子ども達の元気な姿に孫や曾孫の思い出を巡らせている光景も印象的でした。又、小谷バールクラブ(老人会)に所属する友愛チームの皆さんによる、洗濯物たた

みやフランチーへの花苗の植栽、施設内洗面台の清掃、車椅子の磨き清掃等様々な場面で地域と密着した関係が作られている事を嬉しく思っております。

当該施設職員各位の献身的な仕事ぶりを様々な機会に見聞するにつけ、施設長を初め管理者諸氏の適切且つ親身な指導の賜物と心から敬意を表し、創立20周年を祝し、衷心よりお慶び申し上げますと共に、今後一層のご活躍をご期待申し上げます。



車イスを手入れする右城さん



職員から

僕が寒川ホームに入職して4年が経ちました。その5倍の20年もの間、寒川ホームは、地域に密着し愛される施設を目指し、利用者、入所者様の生活を支え共に歩んできました。現在、社会福祉法人を取りまく環境は厳しく、将来を予想することは大変むずかしいのです。ただ、「ただけ言えるのは、日本は高齢化が進み、わが国の財政力、人口構成ではこれまでの発想、考え方は社会福祉制度のあり方を縮小しなくてはならない」と思われます。そんな中で、「これからの寒川ホームをどうしたい」という思いは各職員それぞれあり、その思いが日々のご利用者、入所者様へのケアに繋がっており、僕にも「こうしたい」という思いがあります。僕は、「よりいっそう充実した生活を送れるようになりたい」とホームを利用した、ホームに入所した全ての人がそう感じて頂けるような寒川ホームにしていきたいのです。もちろん、現在でもそのように感じて頂けているご利用者、入所者様もいると思います。ただ、残念ながらそうではない方もいます。そういった方々にも「利用・入所して良かった」と思ってもらえるようなサービスが提供できれば、益々笑顔の溢れる施設になっていくと思えます。ご利用者、入所者様の笑顔を多く見られるということは、職員のやりがいにも繋がります。今後、福祉業界で起るであろう様々な問題に直面した時にも乗り越える力となるはずだと思います。そうならば、おのずと地域から信頼され愛され続けられる施設になっていくのではないのでしょうか。そんな、寒川ホームを目指して、これからも日々精進していきたいと覚悟をしています。



グループリーダー 植田 洋平

寒川ホームの将来を考える



入居者ご家族から

誰でも受けられる福祉社会を

評議員 竹森 浩

吉祥会寒川ホーム創立二十周年おめでとうございます。十年一昔と言いますが、二十年となれば紆余曲折いろいろな事を乗り越えて今日を迎えられた事と思います。そして今「ひとつ屋根の下」で誰もが感じられている事と思いますが、大変和やかで心癒される雰囲気のある素晴らしいホームであります。その様に素敵なホームに、私の母（入居者 竹森 ハツ子）は四年前の十二月に九十五歳で入所させていただきました。そして、翌年十二月に大腸を患い、急遽入院し手術を受け、ストマをつけました。その時はもうホームに戻れないだろうと、落胆してしまいました。ところが、病院とホームの素晴らしい連携で迅速な対応をしていただき、再びホームへ戻る事ができました。今、週に二回母に面会に行き、今まで経験のない母子の会話を楽しんでいます。母を励ますつもりが、逆に励まされ親を思う心に勝る親心を感じて帰る日々であります。母も来年百歳になります。寒川ホームにおかれましては、創立百周年を目指し、ますますご繁栄あられる事をお祈り申し上げます。最後に、いつもいつも母が御世話になりました。ありがとうございます。



職員から

私は、平成5年6月1日に寒川ホームへ入職しました。東京湾をお台場までつながる「レインボーブリッジ」が開通したのは、この年の8月のことです。私が入職した当時、職員数は事務、厨房職員を含めても25人ほどでした。今ほど近隣に施設がなく、寒川町に初めてできる特別養護老人ホームとして、理想と現実のギャップにぶつかっているから、施設長をはじめ職員皆で、試行錯誤を繰り返す日々でした。あれから20年…。寒川ホームの発展を実感しています。当たり前ですが、20年前は私も若く、知識が浅く、入居者（ファミリー）に教えてもらい覚えたことも多くありました。「かしわ」とは、「かしわ」として、何ですか？何が入っているんですか？」「鶏肉よ。鶏肉」とを「かしわ」とも言っている」と、由来まで付け加えて教えていただき「へえ、初めて聞いた」といってごや、榊（かんこ）を下着として着用している方に初めてお会いした時に、いろいろ質問したこともありました。他にも、その時は大変でしたが、今思い起こせば、笑ってしまうエピソードもたくさん体験し、この20年は、辛いことがなかったわけではありませんが、楽しいことの方が断然に印象深く残っています。この20年を振り返り、あつちのままを出してしまふ私を支えられた施設長、同僚、入居者（ファミリー）、ご利用者ご家族、お客様に感謝です。これまでの20年の歩みを励みとし、微力ではありますが、これまで築いてきた歴史をさらに飛躍させ、良い介護が提供できる質の高い施設、地域の皆様に愛される寒川ホームにするために努力することを誓い、さらなる20年後に向けて、またスタートラインに立ち、走り出したいと思えます。



部門長 船山 純子

勤続20年を顧みて



入居者から

寒川ホームに入居して

小澤 寿美子 (90才)

寒川ホーム創立の時からお世話になって入居者です。当所の方々は退所されたり、亡くなった方々といろいろありますが、ここで安心して生活出来るのは、施設長さんをはじめ介護の方々の暖かい支援のおかげと感謝しております。昔から衣食住足りて云々と言われていますが、正にその通りです。私の終の住み家です。よろしくお願ひいたします。



筆者 竹森氏と母(竹森ハツ子様)



利用者さんの目線で・・・

訪問・居宅部門長 木藤 剛

新聞やテレビで騒がれているように、現在、日本は超高齢化社会という時代を迎えています。寒川町の推計では平成29年には75歳以上の高齢者が5500人になると発表されています。平成22年の数字より2000人も多い数です。あと4年で寒川町の75歳以上の人口は3年前に比べ倍以上になるとの予想です。

この超高齢化社会という時代の中でケアマネジャーとして「不安な気持ちで在宅生活を送っている高齢者その家族」と係る事ができることは、介護福祉の世界で働く上で一番の喜びであり、「やりがい」と勝手に感じています。

今後、寒川ホーム訪問・居宅部門は「地域に暮らしている問題を持った高齢者」を積極的に受け入れて問題を解決することが必要です。各関係機関に「困難なケースでも寒川ホームに任せれば大丈夫」と思ってもらえれば、地域に選ばれる寒川ホーム訪問・居宅部門になると考えています。

受け入れるだけでなく、問題を解決するためには、今以上に国・県・市町村・他事業所・医療機関の情報を正確に収集して、学び、積極的に連携を図り、利用者さんの立場に立つて仕事をすることが必要です。

一人でも多くの人が「寒川ホームに相談して良かった」と思っていたらいいように、部門一丸となって「利用者さんの目線で」を心掛けて、問題解決に努めます。



ケアのプロとして

短期入所・通所部門長 船山 純子

在宅生活を送るご利用者とご家族を支える「デイサービス」「ショートステイサービス」を行う、短期入所通所介護部門です。住み慣れた地域の方々の利用を中心に、安心して過ごしていただくサービスを行っています。複数のプログラムやイベントを通し、楽しんでいただきながら、全体に穏やかな中に活気がある時間を提供できれば、と取り組んでいます。

デイサービスでは、昨年平成24年度より時間区分変更などがありました。4月時点では事業者である私たち、ご利用者共々かなり戸惑いが見られたものの、今では落ち着き、ほとんど混乱がなく新しい時間区分によるサービスが定着しつつあるようです。

ショートステイサービスでは、「ご利用者の生活が継続できる生活の場であるよう支援することを目指しご利用をいただいています。」

これらも数ある選択肢の中で「地域ナンバードワン・オンリーワン」のサービスとして、選んでもらえる寒川ホームであるよう、現状で満足と思わずに常に前進することを目指します。

「個人の思いに沿った支援」という言葉は、よく耳にされると思いますが、個別対応が看板倒れとならないために、ご利用者の状態や生活の変化に合わせ、可能な限り求められているサービスを提供し、少数のニーズにも応えられるよう、柔軟な支援を心がけて介護を行いたいと考えています。

私たちは、在宅生活を継続するために重要な役割を担っているという自覚を持ち、「いかに役割を果たしているか?」「ご利用者ご家族の望むサービスを提供しているか?」「ひとつひとつのケアがどれほど重要か?」を意識するケアのプロでありたいと思います。

ご利用者ご家族が、元気で穏やかな生活を送られることを応援し、次のデイサービス・ショートステイの利用を心待ちにいただければ、職員一同取り組みます。



これからの取り組み

介護老人福祉施設部門長 今村 真

「家に帰りたい!」と聞かせることがあります。その時には寂しさというかなんとも言い難い感情と「寒川ホームの居心地が悪いのかな? 何が足りない?」と自問自答することがあります。

寒川ホームに入職して3年、介護老人福祉施設部門の相談員としては3年目を迎えました。2年前から中間浴(機械に頼った入浴)から個別浴(自宅にある浴槽へ移行する取り組みを開始しました。現在では多くのファミリーが機械に頼ることなく入浴されています。個別浴への取り組みは「ファミリーに、一人で入浴する喜びを感じてもらえたら」との思いから始まりました。そして、介護職員を中心に勉強会・研修・技術訓練など日常業務終了後から繰り返し行ってきました。正直、とても大変でしたが、ファミリーの笑顔が見られた時には大変だった思いは吹き飛びます。

そして今、次へのステップとして「排泄」に目を向けて取り組んでいます。

寒川ホームにはオムツを使用されているファミリーがたくさんいらっしゃいます。「オムツだから安心!」今のオムツは不快感も少ないので済ませず、「オムツでも快適にお過ごしいただけないか?」「オムツを外せないか?」を日々考え、試行錯誤しながら職員一丸となって取り組んでいます。

日々新しい介護へと取り組んでいます。生活動作すべてが重要で関係し繋がっています。個別に移行するのに職員の努力が必要でしたが、ファミリーの並々ならぬ努力の成果でもあり、またそれが生活の質の向上へと繋がりました。個別を行うために、「リハビリ」に取り組み活動量が増えたことにより、その直腸運動によって排泄もでき、夜もよく眠れ、食事量も増え、それから「...で、お元気になった。」といったように。

第二の家でただ生活するだけでなく、「いつでも家に帰れる!」とみなさんと共に考え、取り組み歩んでいきたいと思っています。

そして、「住み慣れた第二の家へ戻って生活しよう!」



つながり

医療部門長 小堀 ヒロ子

人と人とのつながりを大切に心穏やかに過ごせたらと思ってきました。日々変化していく社会に対応していかなければなりません。ご利用者様のニーズを満たし人としての尊厳を大切にし的確な支援介入を行っていきたく考えています。

今年度から、寒川ホームの嘱託医は寒川病院の医師に決まり、入居者様の健康管理・療養上の指導を目的としております。医師をはじめ病院職員に対応していただいております。医療部門の力に限界があります。各部門にご協力していただき、現在の医療部門の業務が成立しています。スタッフ一同ご助力に感謝しております。また、これからは医療ケア必要者の受け入れ認知症のケアの専門性、自らの専門性の向上確立にむけ努力していくことが医療部門の使命として日常業務を推進していきたいと思っております。



専門性

栄養・調理部門長 佐藤 恵利子

栄養・調理部門は、食べ易さと見た目・重点を置き刻まない食事の提供としてソフト食を開始しており、喫食率のアップに繋がっております。

今後は更に食材の特性を知り、料理を軟らかくする作用を持つ酵素を使用し、ソフト食としての幅を広げ、御利用者様全ての方が対象となるべくソフト食を提供できるよう努力していきたいと思っております。

このように職員の間で専門的な知識と技術を生かしてご利用者様の食生活を担い、生き生きとした生活を送っていただけるよう、職員間での連携をとり、個々の身体状況・生活スタイルを理解し、栄養管理の行き届いた「安全で美味しい食事の提供」をすること、介護調理の職員として栄養・調理・衛生に関する最新の知識は勿論のこと、栄養・調理部門の職員がいかに御利用者様に必要とされているかを自覚と責任を持って職務を遂行して参りたいと思っております。

平成 24 年事業報告

特別養護老人ホーム 寒川ホーム

要介護度別人数

1	2	3	4	5
2名	6名	12名	22名	12名
平均介護度		平均年齢		平均在籍期間
3.67		82.74 歳		4 年 1 ヶ月

在宅サービス

短期入所(ショートステイ)事業

年間稼働率	利用延べ人数
106.2%	6,590 人

通所介護(デイサービス)事業

年間稼働率	利用延べ人数
61.19%	4,897 人

訪問介護(ヘルパーサービス)事業

利用延べ件数	総時間数
5,507 件	5,475 時間

居宅介護支援事業

給付管理作成実績
1,196 名

寒川ホームの概要

- [特別養護老人ホーム] □ 定員 / 54 名 職員 / 58 名
- [短期入所生活介護] □ 定員 / 17 名 職員 / 11 名
- [通所介護] □ 定員 / 35 名 職員 / 9 名
- [訪問介護] □ 900 時間 職員 / 10 名
- [居宅介護支援サービス] □ 職員 / 4 名

資金収支計算書

	勘定科目	金額
経常活動による収支	収入	
	介護福祉施設介護料収入	164,955,834
	居宅介護料収入	122,184,494
	居宅介護支援介護料収入	15,999,178
	利用者等利用料収入	60,747,180
	その他の事業収入	1,338,955
	寄附金収入	1,248,716
	借入金利息補助金収入	804,114
	受取利息配当金収入	685,388
	有価証券売却益	1,753,600
	雑収入	4,065,857
	経常収入計(1)	373,783,316
	支出	
人件費支出	275,019,129	
経費支出(直接介護支出)	52,706,526	
経費支出(一般管理支出)	47,087,787	
利用者負担減免額	0	
借入金利息支出	804,114	
経常支出計(2)	375,617,556	
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-1,834,240	
施設整備等による収支	収入	
	設備資金借入金収入	0
	施設整備等補助金収入	0
	施設整備等寄附金収入	0
	固定資産売却収入	0
施設整備等収入計(4)	0	
支出		
固定資産取得支出	5,411,700	
施設整備等支出計(5)	5,411,700	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-5,411,700	
財務活動による収支	収入	
	投資有価証券売却収入	40,196,400
	設備資金借入金元金償還補助金収入	13,552,500
	積立預金取崩収入	763,100
	他会計区分繰入金収入	24,500,000
	財務収入計(7)	79,012,000
	支出	
	他会計区分繰入金支出	24,500,000
	設備資金借入金元金償還金支出	18,070,000
	投資有価証券取得支出	40,000,000
積立預金支出	2,899,726	
財務支出計(8)	85,469,726	
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-6,457,726	
予備費(10)	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-13,703,666	
前期末支払資金残高(12)	140,077,268	
当期末支払資金残高(11)+(12)	126,373,602	

PICK UP!



平成25年4月22日 維持審査が2名の審査員により実施されました。審査は施設が実地視察および品質マニュアルによる聞き取りおよび、資料の確認などが実施され、審査の結果、適切に対応していることが実証され無事終了しました。

PICK UP!

ISO 9001:2008 維持審査の実施について

PICK UP!

01 新入職員紹介!

先輩の優しさを 小山楓花

寒川ホームに就職して、職場では先輩職員の分かりやすい指導および、ファミリーからの多くの励ましをいただき、大変楽しく思っています。これからは、この励ましに応えられるよう、一つひとつ確実に丁寧に行なっていきたいと思っています。



編集後記

冬の樹路地の木々の、イチョウは天を目指し枝を伸ばし、ケヤキは空に向かって大きく両手を広げて、これから迎える夏に備えてくれています。

寒川ホームも早いもので創立20周年を迎えました。私たちは地域に根ざした福祉の情報発信基地として「自分が受けた福祉サービス」の提供と改善に努めることを理念としています。

東日本大震災から2年が過ぎ、この震災により社会福祉法人は「命を守ることの大切さ」を再認識させられました。大震災による避難から復旧への過程では、様々な分野で日々ニーズが変化し、対応に混乱が起きています。

この20周年記念号は寒川町長をはじめ、多くの方々に寄稿をいただき、叱咤激励を心にきき、一層地域福祉の充実に邁進する覚悟です。

発行



K・S

ひとつ屋根の下 第17号 平成25年7月1日発行
社会福祉法人 吉祥会

理事長 鈴木 浩
施設長 三澤 京子
広報委員 船山 純子
今村 真 岡崎 敬之
木藤 剛 吉田 由紀

印刷

株式会社プランニング